

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」 分担研究報告書

## 肝疾患患者支援に携わる次世代医療者育成に関する活動と効果

研究分担者：川久保 愛  
国立大学法人佐賀大学 医学部生涯発達看護学講座 助教

### 研究要旨：

【目的】肝炎はSDGsにも明記されている世界的にも重要な健康課題であるとともに、未だ肝疾患患者を取り巻く偏見や差別は深刻な社会問題であり、広い世代に正確な知識を普及させていく必要がある。特に次世代の医療者に対し肝炎患者に向けられる偏見や差別の実態を学び、医療者として適切な倫理的行動について考える機会を提供することは重要である。肝炎医療コーディネーター（肝Co）の研修を受けた研究分担者が、看護教員として看護師・保健師を目指し専門教育を受ける看護学生および医療職への進路を希望する高校3年生に対し、肝疾患に関する知識と肝疾患患者への支援の実際をテーマとした講義を行い、教育効果を検証した。

【方法】看護学科2年次学生61名、および医療職者を志す高校3年生63名に対し肝疾患や肝炎医療、肝疾患患者に対する支援に関する講義を行った。学習効果の検証として、レポートや質問紙調査の内容を分析した。

【成績】講義により、看護学生は【肝疾患の特徴を踏まえた看護の必要性】【多職種連携で病期や患者に合ったセルフケア支援の重要性】【肝疾患の早期発見・治療のための周囲への受検勧奨が重要】【患者および家族への心理的支援の重要性】といった認知的領域だけでなく【偏見や差別の解消には社会への働きかけが重要】【医療者の言動を偏見・差別に繋げないために正しい知識習得が必要】といった情意的領域への教育効果が確認された。高校生は、肝疾患に関する知識が高まったことに加え、肝疾患患者の置かれた現状や、周囲の肝疾患の捉え方によっては偏見や差別に繋がることへの認識が高まったことが分かった。

【結論】肝Coである看護教員が看護学生および医療職を志す高校生に対する肝疾患および肝疾患患者への支援に関する講義は有意義であった。肝疾患に係る知識や患者を取り巻く医療者の活動の実際を教材としたことで、健康や医療に関する知識の深化のみならず、偏見・差別がない社会作りに向けた医療者の責務、さらに医療者として心の醸成の機会に繋がるという観点から、今後継続的に、また小中学生などより早期からの展開も検討していく価値があることが示唆された。

### A. 研究目的

肝Coの役割には、「受検」「受診」「受療」勧奨のほか、地域や職域における肝炎への理解の浸透、肝炎患者やその家族からの相談に対する助言、行政や拠点病院などの相談窓口の案内、肝炎医療費助成や肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業などの肝炎患者

等を支援する制度の説明などがある。さらに、ウイルス性肝炎患者に対する偏見や差別という社会的問題が顕在化してきた状況を受け、肝炎ウイルスの感染者および肝炎患者が生活する中で関わる全ての者が肝炎に対する理解を深め、これらの者の協力の下、肝炎患者等が安心して生活できる環境

づくりに取り組むことが必要であり、肝炎患者への偏見や差別を解消する役割が肝 Co に期待されている。

肝炎への理解や正しい知識の普及にあたっては、社会や市民に向けた発信だけではなく、肝炎患者と接する機会を多く持つ医療職者に向けた教育も重要である。特に、次世代の医療職者に向け、基礎教育の段階からエビデンスに基づく正確で専門的な知識を教授することには大きな意義がある。また、肝 Co はあらゆる職種・患者会の構成員からなるが、特に、看護師・保健師がその多くを占めている。このことから、看護師・保健師を志す看護学生、さらには医療職者への進路を希望する高校生に対し、感染経路をはじめとした肝炎に関する正しい知識の教授を積極的に図っていくことが、肝炎への理解や正しい知識を広げる基盤を構築していくうえで重要である。将来多くの肝炎患者を含む感染症患者と接する学生・高校生に対し、肝炎患者に向けられる偏見や差別の実態を学び、医療職者として適切な倫理的行動について考える機会を提供することも重要である。今回、肝 Co の研修を受けた看護教員が、看護師・保健師を目指し専門教育を受ける看護学生および医療職への進路を希望する高校 3 年生に対し、肝疾患に関する知識と肝疾患患者への支援の実際をテーマとした講義を行い、教育効果を検証した。

## B. 研究方法

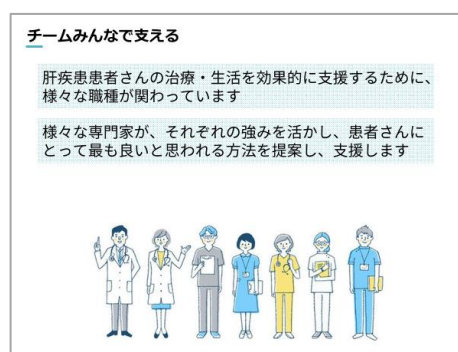
### 1) 看護学生への講義

対象：4 年制看護系大学看護学科の 2 年次生 61 名 講義：肝 Co 養成研修を受講した教員による成人期にある慢性肝疾患を有する患者を対象とした看護の理解を目的とした 90 分間の講義 評価：「本講義の学び」について自由記載による 150 字以内の簡潔なレポート 分析：内容分析

### 2) 医療職を志す高校生への出前講義

対象：医療職を志す高校 3 年生 63 名 講

義：肝 Co 養成研修を受講した教員による肝疾患や肝炎医療、肝疾患患者に対する支援の理解を目的とした 60 分間の講義 評価：本講義の学びを問う無記名式質問紙調査 分析：記述統計



(倫理的配慮) 本研究は佐賀大学医学部倫理委員会の承認を得て実施した (R4-16)。

## C. 研究結果

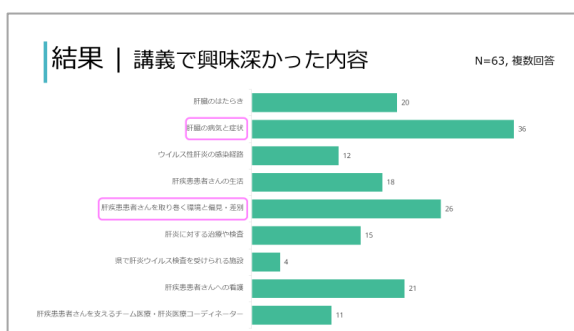
### 1) 看護学生への講義

看護学生は【肝疾患の特徴を踏まえた看護の必要性】【多職種連携で病期や患者に合ったセルフケア支援の重要性】【肝疾患の早期発見・治療のための周囲への受検勧奨が重要】【患者および家族への心理的支援の重要性】といった認知的領域だけでなく【偏見や差別の解消には社会への働きかけが重要】【医療職者の言動を偏見・差別に繋げないために正しい知識習得が必要】といった情意的領域への教育効果が確認された。高校生は、肝疾患に関する知識が高まったことに加え、肝疾患患者の置かれた現状や、周囲の肝疾患の捉え方によっては偏見や差別に

繋がることへの認識が高まったことが分かった。

## 2) 高校生への出前講義

調査結果から、当講義によって肝疾患に関する知識が高まったことに加え、肝疾患患者の置かれた現状や、周囲の肝疾患の捉え方によっては偏見や差別に繋がることへの認識が高まった。さらに、肝 Co の活動を知ることにより、医療職への関心をいっそう高めるだけでなく、偏見や差別の解消における医療職の役割や重要性の理解、志の醸成に繋がる契機となった。



結果 | 学びや感想 (自由記載)

- 肝炎について初めて知ったことばかりだったが、看護師は、体だけでなく心もケアすることが大切だと分かった。
- 自分が思っていた以上に肝炎患者さんが大変な思いをされていることが分かった。
- 偏見・差別をなくすには、正しい知識の普及が第一だと自分は思った。
- 肝炎についてはCMで見て聞いたことはあったが、知らないことがたくさんあると分かった。まず家族に肝炎の検査を受けるよう伝えたいと思う。
- 将来、正しい知識を身につけ患者さんやその周りの人と接していきたいと思った。

## D. 考察

肝 Co 研修を受講した看護教員が看護学生および医療職を志す高校生に対し、肝疾患および肝疾患患者への支援に関する講義は有意義であった。肝 Co 研修や、肝 Co としての活動、肝疾患患者との交流といった経験を活かし、肝疾患に係る知識や患者を取り巻く医療者の活動を教材としたことで、健康や医療に関する知識の深化のみならず、偏見・差別がない社会作りに向けた医療者の責務、さらに医療者として心の醸成の機会に繋がるという観点から、今後継続的に、また小中学生などより早期からの展開も検

討していく価値があることが示唆された。

## E. 結論

肝疾患患者支援に携わる次世代医療者育成に向けて、今後も活動を継続していく。また、今後は対象の拡大や患者参画型の講義の導入なども検討していく。

## F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

なし

<研究活動に関連した実務活動>

なし

## G. 研究発表

(発表論文)

- 川久保愛, 古賀明美, 江口有一郎: 看護教員による肝炎医療コーディネーター研修を活かした「慢性肝疾患患者への看護」に関する講義の教育効果. 肝臓 (in press)

(学会発表)

- 川久保愛: 肝炎医療コーディネーターである看護教員が行う医療職を志す高校生に対する肝疾患患者への支援に関する出前講義の効果. 肝臓 (0451-4203) 64巻Suppl. 3 Page A809 (2023. 10)

## H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし